

野生獣肉のペットフードについて

ペットフード安全法を守って安全なペットフードを作りましょう



ペットフード安全法の概要

届出

- ◆法人、個人を問わず、ペットフードの輸入又は製造を行う事業者は、**開始前に届出**が必要です。

帳簿の備付け

- ◆ペットフードの輸入、製造又は卸売を行う事業者は、輸入、製造及び販売したペットフードの名称、数量などを帳簿に記載、あるいはコンピュータで記録し、**2年間保存**する必要があります。

表示基準

- ◆ペットフードの① 名称、② 賞味期限、③ 原材料名、④ 原産国名、⑤ 事業者名及び住所について、**日本語で表示することが義務付け**られています。

成分規格 製造方法の基準

- ◆ペットフードの安全を確保するため、農薬、重金属等の上限値を定めた成分規格や、病原微生物に汚染された原材料は用いてはならない等の製造方法の基準が設定されています。

立入検査

- ◆国及びFAMICが輸入業者、製造業者、販売業者等に対し行い、原則として無通告で実施します。

- ・ペットフード安全法の詳細は、リーフレット「ペットフードの安全確保のために」をご参照ください。
(<https://www.maff.go.jp/j/syouan/tikusui/petfood/pdf/Petfood-Leaflet.pdf>)



【事業者のみなさまからのペットフード安全法に関するお問い合わせ先】

- ・北海道農政事務所 011-330-8816
- ・東北農政局 022-745-9383
- ・関東農政局 048-740-5065
- ・北陸農政局 076-232-4106
- ・東海農政局 052-223-4670
- ・近畿農政局 075-414-9000
- ・中国四国農政局 086-224-4511
(内線2394)
- ・九州農政局 096-211-9255
- ・沖縄総合事務局 098-866-1672

- ・農林水産省では、国内野生イノシシにおける豚熱発生を受け、「豚熱感染確認区域におけるジビエ利用の手引き」を作成しています。ペットフードの製造管理においても、当該手引き等をご参照いただきつつ、豚熱まん延防止にご協力いただきますようお願い申し上げます。
- ・詳細は農林水産省HPをご確認ください。
野生イノシシにおける豚熱対策：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar/inosisitaisaku.html>
豚熱 (CSF) について：<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gibier/tonko.html>
- ・ご質問等は農林水産省動物衛生課又は都道府県の家畜衛生担当部署にお問い合わせください。



野生獣肉を利用したペットフードの製造管理の例

下記は野生獣肉を利用して、安全なペットフードを製造するための製造管理の一例です。各工場の設備、品質管理体制等に合わせて製造管理を行ってください。

原料の受入れ

- **弾等の異物混入防止のため、原料受入時に、金属探知機※¹による検査**
- 鮮度が良い原料（自社基準に基づき、止めさし後一定時間内に食肉処理施設に搬入された原料）を受入れ

ポイント1

微生物汚染や（鉛弾の場合）鉛の残留※²の可能性があるので、**銃弾の経路付近の肉の使用は避けましょう。**

原料解凍時の検査

- 目視による確認
- 解凍時にドリップが多い原料は使用しない
- 解凍時に異臭がある原料は使用しない

製造

- 寄生虫、細菌等の感染症リスク※³に配慮し、肉の中心部まで**十分加熱**
- 工場内では微生物等による二次汚染を防ぐため、原料エリアと加熱後エリアを分け

ポイント2

出荷前の検査

- **金属探知機※¹による再検査**
- 微生物（特にサルモネラ菌）の検査

ポイント3

※¹ 金属探知機は、検査機器メーカーが定める検査方法を確認し、使用しましょう。

※² ペットフード安全法では、ペットフード中の鉛の上限値（3μg/g）が設定されています。

※³ 野生獣は、一般的に、**寄生虫、細菌等に感染している可能性が高い**ことが知られています。野生獣肉の利用に当たっては、十分に加熱するなど、これらの食中毒リスクに注意し、犬・猫に安全なペットフードを作りましょう。

◆ ペットフード安全法では、ペットフードの製造方法の基準として「有害な物質を含み、若しくは病原微生物により汚染され、又はこれらの疑いがある原材料を用いてはならない」と定めています。

◆ 原子力災害対策特別措置法に基づき食品に関する出荷制限がなされている野生のシカやイノシシの肉は、「有害な物質を含む疑いがある原材料」に相当すると考えられますので、ペットフードの原料としての使用は控えてください。